令和元年度 山口県立徳山高等学校（本校・全日制） 学 校 評 価 書 校長（ 椎原 伸彦 ）

1 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進
（1）主体的な学びを伸長する学習指導・進路指導の推進
（2）総合的な人間力の育成に向けた特別活動・体験学習の充実
（3）自主自立の精神と社会貢献への意欲・能力の育成

〈中・長期目標〉 **伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成をめざす**

2 平成31年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策

① **総務課**
家庭と地域の連携を深める

② **教務課**
教育課程の充実と更なる研究と校務支援システムのスムーズな運用

③ **生徒課**
生徒と教職員の信頼関係を基盤とした生徒指導、年次・分掌・教科との連携による学校行事・生徒会活動の活性化と効率的な運営

④ **進路指導課**
個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応

⑤ **教育相談課**
学校生活全般を教育相談的立場から見直し、生徒一人ひとりが自分の居場所が感じられる雰囲気作り

⑥ **図書視聴覚課**
読書活動の充実

⑦ **情報企画課**
校内外の情報資源を安全かつ有効に利用する

⑧ **保健体育課**
たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり

⑨ **ＳＳＨ・理数科**
理数科と科学部および学校全体におけるＳＳＨ事業の実践による先進的な理数教育の推進

⑩ **人権教育**
自己の学校生活を充実させ、自己および他人の人権意識を高める

⑪ **業務改善**
教職員が互いの業務内容を理解し、協働して業務遂行ができる職場づくり

3　自己評価						4　学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○家庭と地域の連携を深める	学校説明会やホームページ等を通じて情報発信を行うとともに、令和2年度にコミュニティ・スクールを導入するための研究と準備をすすめる。	4：十分に連携が深まった。 3：連携が深まった。 2：連携が不十分であった。 1：連携ができなかった。	4	学校説明会には700名を超える参加者があり、施設・部活動の見学などを通じて本校への理解を深めることができた。ホームページの更新を行事実施後にすぐに行い、迅速な情報発信をすることができた。平成2年度のコミュニティ・スクールの研究・準備は順調におこなうことができ、来年度の導入に向けて最終調整を行っているところである。	学校説明会やSSH体験講座などに多くの中学生が参加しており、来年度以降も今年度同様に実施することで、本校への理解を更に深めてほしい。 コミュニティ・スクールについては、本校の特色が生かせるような取組を実践してほしい。	A
教務	○教育課程の充実と更なる研究と校務支援システムのスムーズな運用	生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成と教育活動をスムーズに展開する。 校務支援システムの導入に向けて研修の充実を図る。	4：年次・教科間で生徒の特性を共通理解して、円滑な教育支援と課題の改善への研究を行った。 3：年次・教科間で共通理解をして、教育支援を行うことができた。 2：年次・教科間での共通理解が不十分だった。 1：生徒の特性を把握できなかった。	4	各年次において目標に向かって活気ある授業が展開されている。生徒の進路実現のために、教育課程の編成を、年次・教科・分掌の連携を図りながら行った。新学習指導要領による教育課程の説明会に参加し研修内容を共有した。今後も社会に開かれた教育課程の研究を深め、確かな学力を育成をめざしたい。後期から校務支援システムをスタートさせた。今後とも先生方が使いやすいシステムとなるよう関係機関との連携を行いたい。	授業を参観してみて、活気のある授業が行われていると感じている。今後も、ICTの活用など積極的な授業改善を進めてほしい。 また、「社会に開かれた教育課程」を実践するため、コミュニティ・スクールの利点を生かした教育活動が展開できるよう工夫してほしい。	A
生徒指導・特別活動	○生徒と教職員の信頼関係を基盤とした生徒指導、年次・分掌・教科との連携による学校行事・生徒会活動の活性化と効率的な運営	生徒指導の4本柱（遅刻の防止、挨拶の励行、掃除の徹底、服装・頭髪の清整）と情報モラルの指導を強化し、礼儀正しく品格のある生徒を育成する。	4：十分に指導が行き届き、9割以上の生徒が節度を持って学校生活を送ることができた。 3：7割以上の生徒が節度を持って学校生活を送ることができた。 2：節度を持って学校生活を送ることができた生徒が半数程度だった。 1：節度を持って学校生活を送ることができなかった生徒が多かった。	4	毎朝の立哨指導により、挨拶をする生徒が増えてきた。遅刻数も減少傾向にある。年次主任、担任との連携により、服装・頭髪の指導が困難な生徒はいない。掃除状況は、取りかかりを早くすれば、さらに徹底することができる。情報モラルに関しては、一部の生徒に意識の低さが見られたので、継続的に指導していくことが今後の課題である。	登下校の様子などから、生徒指導が十分に行われいることが分かる。生徒はよくあいさつをしており、今後も「生徒指導の4本柱」を中心に、品格のある生徒の育成と、安全・安心な学校づくりに向けた指導を継続してほしい。	A
		生徒自身が主体的に勉学と部活動・生徒会活動のそれぞれに全力で取り組める場面を作り、豊かな人間性と自己有用感を高めることができるように支援する。	4：9割以上の生徒がよりよい人間関係を形成し、自己有用感を高めることができた。 3：7割以上の生徒がよりよい人間関係を形成し、自己有用感を高めることができた。 2：よりよい人間関係を形成し、自己有用感を高めることができた生徒が半数程度だった。 1：よりよい人間関係を形成し、自己有用感を高めることができなかった生徒が多かった。	4	生徒自身が主体的に勉学と部活動・生徒会活動に取り組み、両立させた。多くの生徒が実行委員として積極的に参加し、自己有用感や連帯感が育った。二大行事では、生徒会執行部を中心に生徒同士の話し合い、調整のもと企画・運営がなされ、それぞれの場面で豊かな人間性を磨くことができた。	高いレベルで文武両道を実践することは、本校の目標とするところであり、これまでの活動成果は大いに評価できる。今後も二大行事や生徒会活動などを通して人間性を高める教育活動を実践してほしい。	
進路指導	○個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応	（1年次生） 「予習・授業・復習」サイクルによる学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。大学入学共通テストに必要な基礎学力を育成する。	4：学習習慣が定着し、学力が向上した。 3：学習習慣が定着した。 2：成果があまり見られなかった。 1：成果がほとんど見られなかった。	4	入学当初の学習オリエンテーションの実施やマナビジョンの活用、講演会等の実施により、自己管理力、学習計画力、進路に対する意識が向上した。授業改善、補習、課外、小テストや面談を通して、学習習慣が定着し、学力が向上した。また下位者に対するきめ細かい指導により、例年と比較して全体として高い学力を維持している。	進路指導は、本校の要であり、生徒や保護者だけでなく地域からも期待されている。学校評価アンケートや授業評価アンケートでは家庭学習に課題があるものの進路に関する情報提供や進路相談の項目では高い評価を得ている。 共通テストでの英語外部検定や記述式問題の導入が見送られたが、今後も出題傾向を研究し、対応に努めてほしい。 生徒一人ひとりに対する細やかな指導が行われており、着実に学力がついていると感じている。個別面接指導については、引き続き生徒が依頼しやすい雰囲気づくりに努めてほしい。	A
		（2年次生） 学習計画、課外、模擬試験等の実施により、早期受験態勢の確立とともに大学入学共通テストに対応できる学力の習得を図る。	4：受験への取組が十分できた。 3：受験への取組ができた。 2：成果があまり見られなかった。 1：成果がほとんど見られなかった。	4	大学入学共通テストの初年度実施の年次として、授業改善、課外、模擬試験等の実施により、受験に対する意識を強化し学力の向上を図った。結果的には、制度面での大きな変更（英語認定試験、国語・数学の記述式問題の不採用）による混乱もなく、受験に対する意識、学力の向上が見られた。		
		（3年次生） 課外、模擬試験、センター試験対策講座、小論文、面接指導等の実施により、受験学力の習得を図る。	4：受験に対応できる学力が向上した。 3：受験に対応できる学力が定着した。 2：成果があまり見られなかった。 1：成果がほとんど見られなかった。	4	6月から11月までの平日放課後課外、夏季課外（前期・後期）、4月当初からの個別添削指導等の実施により、学力の向上が見られた。センター試験、個別試験、小論文に対応した講演会、講座を実施することで、基礎学力及び受験学力が上昇した。また、各種模試を積極的に受験させ、全体としての受験に対する意識と受験に対応できる学力が向上した。		

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育相談	○生徒の学校生活における充足感を高め、自己肯定感を高めると共に諸問題に対する早期発見と早期対処を図る	年次や保護者、他の分掌との連携をとり、生徒の変化を見逃さず、また実態調査等により生徒の状況把握を行い、適切な対応を行う。また、学校生活における生徒のストレスの軽減に努める	4：連携して効果的な対応ができた。 3：連携して対応ができた。 2：連携して対応できなかった。 1：状況把握ができなかった。	4	生徒が抱える問題や悩みに対して、生活意識調査や面談、あるいは欠席や遅刻状況などにより、早期の発見に努め、担任や年次、そして保護者等とすみやかに連絡を取ることで、早期対応をした。また、必要に応じてケース会議を開き、関係機関との連携するなど早期解決に向けて具体的な手立てを講じた。	多様な生徒がいる中で、調査・観察・面談を有効に活用しながら、早期発見・早期対応に努めている。今後も情報共有等の組織的な対応を充実させるとともに、生徒が相談しやすい体制を維持してほしい。	A
図書視聴覚	○読書活動の充実	読書推進のための情報提供と図書配架を行う。	4：活動状況は例年より好調であった。 3：活動状況は例年並みであった。 2：活動状況は例年より低調であった。 1：活動状況は顕著に低調であった。	4	読書感想文コンクールでは、地区審査出品5名のうち5名全員が県のコンクールに推薦され、そのうち1名は最優秀賞（課題図書1位）に入賞し、全国コンクールに推薦された。いずれの生徒も上位入賞した。	読書コンクール等にも積極的に出品し、良い評価を受けている。読書に対して適切な対応をしていると感じる。	A
情報企画	○安全性・可用性の向上と維持	利用可能な情報機器と資源の管理・保守を適切に行い全校での有効活用を期す。	4：管理を適切に行い、利用も完全であった。 3：適切な維持・管理ができた。 2：十分な管理ができないことがあった。 1：管理が不適切で業務に支障を来した。	3	校内の情報関連機器と基本ソフトウェアの更新が進行中である。一方、年度途中からから外部の機器更新への対応も必要となったが予算措置及び技術支援の確保について現在も調整中である。	1年次の教室へのプロジェクター設置などによりICT機器がより使いやすい環境になりつつある。2・3年次教室へのプロジェクター設置やWi－Fi環境整備など、引き続きICT環境の整備を行ってほしい。	A
保健体育	○たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり	体育の授業や部活動等を通して仲間との連帯感・協調性を大切にし、自己の体力と運動能力を向上させるとともに、自分の思いや願いを話すことと同時に他人を思いやることができる生徒を育てる。	4：仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動していた。 3：仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動する生徒が多かった。 2：仲間と協力し、自主的・主体的に活動する生徒が半数程度だった。 1：仲間と協力し、自主的・主体的に活動しない生徒が多かった。	4	体育の授業においては、生徒たちは時間厳守で意欲的に楽しく活動していた。運動会においては、天候不順のため練習・準備などかなりの遅れもみられたが、生徒・教職員の協力もあり、当日は大変スムーズに運営でき、大成功をおさめることができた。また、マラソン大会においてはコース改正から2年目をむかえ、昨年度の反省を踏まえ、実施の予定としている。引き続き検討していきたい。	運動会では、準備期間の天候不順を乗り越えた生徒の素晴らしい活動を見ることができた。マラソン大会については、引き続き生徒の安全を第一に、改善に努めてほしい。 今後も体力の向上と健康の保持増進に努めてほしい。	A
ＳＳＨ・理数科	○理数科と科学部および学校全体におけるＳＳＨ事業の実践による先進的な理数教育の推進	理数科と科学部および学校全体におけるSSH事業の実践を通じて、全校生徒の理数や科学技術等に対する理解を深め、国際感覚の涵養を図る。	4：学校全体で教育効果の高い活動ができた。 3：学校全体で予定された活動がほぼできた。 2：理数科・科学部で予定された活動がほぼできた。 1：予定された活動がほぼできなかった。	4	多くの生徒が外部発表の場で発表の経験を積むことができた。また、高校生科学技術チャレンジ（JSEC）において全国9位の成績に相当する協賛企業賞を受賞するなど、課題研究のレベルも高いものが行われるようになってきた。科学部の活動においては、研究活動に加え、京都大学主催の森里海サマースクールに参加するなど、他校生とのディスカッションの場に参加したり、訪問してくださったマラヤ大学学生等との交流を行うなど、多様な考えに触れることもできた。	SSH事業は、本校の大きな特色であり、中学生にとっては本校を志願する魅力の一つでもある。第3期の申請に向けて力を注ぐとともに、新しい取組にもチャレンジしてほしい。また、理系の生徒だけではなく、文系の生徒にもその効果が及ぶよう、PBLなどを通して事業の拡大を図ってほしい。	A
人権教育	○自己および他者の人権を理解し尊重する指導ならびにいじめの未然防止および諸問題に対する早期対応	講演会の開催等により人権意識を高めるとともに、いじめ等に関する生活意識調査を行い、生徒の状況把握と、関係各所との連携による早急な対応を行う。また、生徒の本校への帰属意識を高め、充足した生活をおくれるよう努める。	4：取組により他者の人権に配慮する意識が高まった。 3：取組により他者の人権に関心を持つようになった。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：状況把握ができなかった。	4	多くの生徒は、本校の特徴である多様性を認め、色々な考えや意見を持った人間がいることを受け入れようとしており、他に対して優しい。しかしながら、中には、自分のした行為が他にどのような影響を与えるのかを深く考えず、ネット等への書き込みなどの行動に出る者もいる。生徒の様子をよく観察し対応していくことが重要である。	いじめの案件については、継続対応しているものを含め早期対応・解決に努めている。今後も生活意識調査などを有効に活用し、未然防止・早期発見に努めるとともに、教育相談課や年次を中心に組織的な対応をしてほしい。	A
業務改善	○教職員が互いの業務内容を理解し、協働して業務遂行ができる職場づくり	教職員がそれぞれの業務内容を理解し、協働によりチームとして各業務を遂行する職場文化の醸成をめざし、負担感、多忙感の軽減を図る。	4：業務内容の相互理解が進み、チームとして業務を遂行することにより、業務改善された。 3：各分掌や主副担当間の連携による業務遂行が進み、負担感や多忙感が軽減されつつある。 2：チームとして業務を遂行しようとする意識はあるものの、業務改善につながっていない。 1：チームとしての業務体制が確立できず、教職員に時間的なゆとりが見られなかった。	3	各分掌内や年次団の担任、副担任間のみならず、分掌を超えて情報交換をしながら協働して業務に当たる姿が見られるようになった。在籍生徒数が多いため、一つひとつの業務の処理に時間がかかることもあり、大幅な業務時間の縮減には至っておらず、引き続き業務改善の取組を推進していく必要がある。	部活動のガイドラインが示されるなど、業務改善に向けた取組が推進されていると感じる。充実した教育活動を実践するためにも時間外業務時間の縮減に努めてほしい。	A

５ 学校評価総括（取組の成果と課題）

① **総務課**
　行事に関するホームページの更新が昨年度よりもさらに充実し、情報発信を的確に行うことができた。コミュニティ・スクールの来年度への導入の準備・研究をすることができた。コミュニティ・スクールの円滑な運営に向け、具体的な役割分担や体制づくりを進める必要がある。

② **教務課**
　次世代型教育推パイオニア校における実践研究やＳＳＨ事業におけるＰＢＬなどにより、授業改善を進めることができた。
　教育課程の充実と更なる研究、また、新学習指導要領実施に伴う教育課程の編制と校務支援システムのスムーズな運用をしていく必要がある。

③ **生徒課**
　生徒自身が主体的に勉学と部活動・生徒会活動に取り組み、両立させた。多くの生徒が実行委員として積極的に参加し、自己有用感や連帯感が育った。二大行事では、生徒会執行部を中心に生徒同士の話し合い、調整のもと企画・運営がなされ、それぞれの場面で豊かな人間性を磨くことができた。

④ **進路指導課**
　それぞれの年次で目標を設定し、計画的に取り組むことにより、進路意識や基礎学力、受験学力が向上した。現３年次は最後のセンター試験、現１・２年次は大学入学共通テストとなることを踏まえ、より一層きめ細かな進路指導を推進し、生徒の希望進路の実現に向けて組織的な対応を進めることが課題である。

⑤ **教育相談課**
　生徒が抱える問題に対し、出席状況や生活意識調査、面談等により早期に発見し、ケース会議を開き、対応方針を検討し、協力して対処することができた。
　生徒の多様性に対応するため、特別支援教育に係る通級指導などが円滑に進めることができるよう、教職員の資質能力向上を図る必要がある。

⑥ **図書視聴覚課**
　読書活動を促す様々な働きかけにより、読書量が増えた。また、各種小論文コンクールへの応募も好成績を収めている。

⑦ **情報企画課**
　大きなトラブルはなく、校内外の関連機器及び基本ソフト・業務パッケージの更新や導入作業に対応することができた。
　物的のみならず人的資源の継続的な確保が、校内外を問わず課題である。

⑧ **保健体育課**
　校内における体育的行事・保健活動等を通して、生徒に運動の継続や健康の維持の重要性を認識させ、生涯にわたって自主的に体力の向上や健康の保持増進を図ることができた。今後とも保健体育課が一丸となった組織的な取組を継続していく必要がある。

⑨ **ＳＳＨ・理数科**
　県内連携校の協力を得ながら実施した「ＳＳＨ科学技術人材育成重点枠」事業においても、おおむね予定通り実施することができ、県内の理数教育の充実に貢献できた。本事業は今年度で終了するが、来年度以降も県内の理数教育を牽引する学校として、取組みを深化させていく必要がある。

⑩ **いじめ対応**
　生活意識調査や面談等により、早期に発見し、年次や生徒課、ＳＣと連携を取りながら対応した。
　今後もいじめは存在するという意識のもと、未然防止・早期発見に努めるとともに、組織的な対応を行う必要がある。

⑪ **業務改善**
　時間外業務時間及び月45時間以上の時間外勤務を行っている教員の割合は昨年度と比べいずれも10%程度少なくなった。一方で月45時間以上の時間外勤務を行っている教員の割合は依然として５割を超えており、分掌間の協力体制の充実を通じた業務改善を一層進めていく必要がある。

６ 次年度への改善策

- 分掌、年次、教科等の連携を充実させることにより、組織力と同僚性を高める。
- 新学習指導要領実施に備え、「社会に開かれた教育課程」が実践できるようカリキュラム・マネジメントを組織的に進める。また、共通テストに向け、問題の分析・研究を行うとともに、具体的な対策を講じる。
- SSH第3期を計画どおり実施できるよう、全校一丸となった組織づくりを行うとともに、次世代型教育パイオニア校の指定最終年として、これまでの研究の総括を行う。
- 生徒の主体的な活動、生活習慣の確立、体力の向上を推進し自主自立の精神を醸成するとともに、望ましい人間関係づくりに向けた取組を継続する。
- さわやかで気持ちの良い挨拶の励行に向けて、教職員から積極的な挨拶や声かけを行い、安全で活気のある明るい学び舎づくりに取り組む。
- きめ細かな面談や定期的な生活実態調査を行うことで、いじめ防止、早期発見に努め、生徒支援にあたっては組織的な取組となるように校内体制を充実させる。
- ホームページや緊急メールを利用して、自然災害等発生時の学校対応連絡を迅速に行うとともに、日々の教育活動の定期的な発信を行う。
- 年次、分掌間の連携と協働を一層進め、業務時間の縮減を図るとともに、業務の適正な分担による多忙の軽減に取り組む。